

【1 学期始業式】 4 月 9 日（月）

平成 30 年度のスタートにあたり、「二十一世紀に生きる君たちへ」と題して、次のような話をしました。この「二十一世紀に生きる君たちへ」は小説家・司馬遼太郎が小学生の教科書のために書き下ろした随筆のタイトルです。

司馬遼太郎の著書には、幕末維新を先導した坂本竜馬が主人公の「竜馬がゆく」、明治時代に立ち向かった秋山好古・真之兄弟と正岡子規らの青春群像を描いた「坂の上の雲」、明治維新の立役者となった西郷隆盛と大久保利通の友情と対立を描いた「翔ぶが如く」、戊辰戦争時の越後長岡藩家老・河井継之助の生き様が鮮烈に描かれる「峠」など多数あります。

昨年読んだ司馬遼太郎の作品に興味を惹かれたこともあり、今年、菜の花が咲き始める 1 月の末に、大阪にある司馬遼太郎記念館を訪ねました。

司馬遼太郎記念館は、建築家として著名な安藤忠雄さん設計のコンクリート打ちっ放しの建物で、建築に興味のある人には必見です。館内にある高さ 11 メートル、3 層吹き抜けの大書架には圧倒されます。事実、司馬遼太郎は約 6 万冊もの蔵書を持ち、書庫や書斎に収まりきらず、廊下や玄関にも本棚があったそうです。ちなみに小坂井高校の図書館の蔵書は約 2 万冊、三分の一です。

司馬遼太郎は一つの小説を書き上げるまでに、関係する数十冊の分厚い書籍、資料を手元に置き、丹念に読み込み、史実に忠実に書き進めたそうです。膨大なデータを積み上げて考察し、結論を導いていく科学者と同じです。

さて、この記念館に「二十一世紀に生きる君たちへ」と題した 2000 字弱、原稿用紙 5 枚ほどの文章が掲示されていました。私は足を止めて、じっくりと読みました。

確か皆さんは西暦 2000 年（平成 12 年）、2001 年、2002 年、2003 年生まれですね。ここにいるほとんどの人が、21 世紀が始まる 2001 年以降に生まれたこととなります。司馬遼太郎は、21 世紀になる前 1996 年に 72 才で亡くなりました。

この文章は、21 世紀まで生きることはないと思った司馬遼太郎が、21 世紀を生きる次代の担い手への思いを綴ったメッセージです。一部を紹介します。

歴史を愛する司馬遼太郎は、「私は少なくとも二千年以上の時間の中を、生きているようなものだと思っている。この楽しさは——もし君たちさえそう望むなら——おすそ分けしてあげたいほどである。」と学び求めてきたことの楽しさを語る一方、『やさしさ』『思いやり』『いたわり』などの言葉は、もともと一つの根から出ているが本能ではない。だから、私たちは訓練をしてそれを身につけねばならない。（途中略）この根っこの感情が自己の中で根づいていけば、他民族へのいたわりという気持ちもわき出てくる。」とあります。

私たちに与えられた数十年という時間に何をすべきか、いかに心豊かに成長していくか、ということに対して、「さきに私は自己を確立せよ、と言った。自分には厳しく、あいてにはやさしく、とも言った。それらを訓練せよ、とも言った。それらを訓練することで、自己が確立されていく。そして、“たのもしい君たち” になっていく。以上のことは、いつの時代になっても、人間が生きていくうえで、欠かすことができない心がまえというものである。

(途中略)君たちはつねに晴れ上がった空のように、たかだかとした心を持たねばならない。同時に、ずっしりとたくましい足どりで、大地をふみしめつつ歩かねばならない。」と教えてくれています。

1年生にとっては高校生活が始まり、2, 3年生にとっては新しい学年、新たな一年のスタートです。有限の時間を有意義な時間とするよう心掛けてください。

以上で終わります。